# JSBB 熱中症予防対策（案）

## ■JSBB 暑さ指数に係る実施方針（案）

| 熱中症予防運動指針（WBGT℃） | | JSBB 熱中症予防対策指針 | 会場（試合会場等）での対応 |
|---|---|---|---|
| JSPO | 環境省 | | |
| | 35℃（予測値） | 試合の中止 | 当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延を判断する。 |
| 参考：熱中症特別警戒アラート発 | | | |
| | 33℃（予測値） | 試合の中止 | 当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延・時間変更を判断する。 |
| 参考：熱中症警戒アラート発表 | | | |
| **31℃以上**<br>**運動は原則中止** | — | **原則試合の中止** | 原則、試合は中止または順延とするが、JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。<br><br>※試合中に WBGT33℃以上を超えた場合は、試合を中止または中断する。 |
| 28℃～30℃<br>厳重警戒<br>激しい運動は中止 | — | 厳重警戒 | JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）に準じて試合を実施することができる。 |

【補足】

※JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）については、赤線□で囲んでいる内容が該当となる。

※熱中症特別警戒アラートが発表された時には、大会本部にて実施検討会議を行う場合がある。

## ■全国大会における WBGT の計測の実施

- **学童少年部の全国大会において WBGT 計による計測を行う**

① WBGT 計測は、大会運営側が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する。

② 計測は、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。

③ 1 試合における計測は、6 イニングならびに 7 イニングでの試合の場合は、試合前・2 回、4 回終了後・試合終了後の 4 回とする。
9 イニングでの試合の場合は、試合前・3 回、5 回、7 回終了後・試合終了後の 5 回とする。
※試合前の計測する時間は、できる限り試合開始時間の直前とする
※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとに計測を行う

④ WBGT 計測器を地上から 1.1m～1.5m の高さで計測する。活動に支障がなく、運動実施個所になるべく近いところにする。

## ■熱中症の予防対策

大会運営側の対応

- 救護所を準備する。
- 球場には常時 WBGT 計測器を準備し、適時確認し選手の健康面に気を配る。
- ベンチでは選手、指導者をとりまくスペースに日射を遮る環境を整える。
- 緊急時に備え、氷、スポーツドリンク、経口補水液を準備すること。

- 審判、運営スタッフ、関係者等にスポーツドリンクを用意すること。
- 選手、保護者および観客等がスポーツドリンクを購入できる環境を整備する。万が一、施設内に自動販売機やスポーツドリンクが購入できない環境にある場合は、事前に参加者に周知すること。
- WBGT25℃以上が予測される場合、医務室および医務スペース周辺にアイスバス等の全身冷却が可能となるよう準備する。
  ※アイスバスが準備できない場合は、氷やアイスパックなどで首、わき、足の付け根などの大きな血管を冷やすこと。
- 空調の効いた諸室等を準備する。

■試合当日の対応

- **原則 WBGT31℃以上の場合、試合は開始しない。　※**
  ※　WBGT31℃以上が試合中に予測される場合は、①・②を実行し、主催者の判断で試合を実施することができる。

① WBGT28℃以上の場合
- ✓ 6 イニングでの試合の場合は 2 回、4 回終了後に 5 分間のクーリングタイム（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける。（3 回終了後のグラウンド整備時にも積極的に給水・身体冷却を行うこと）
- ✓ 7 イニングでの試合の場合は 2 回終了時、4 回グラウンド整備時に 5 分間のクーリングブレイク（給水タイム）を設ける。
- ✓ 9 イニングでの試合の場合は、3 回終了時、5 回グラウンド整備時、7 回終了時に 5 分間のクーリングブレイクを設ける。
  ※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとにクーリングブレイクを設ける
- ✓ 各イニングにて守備時間が 20 分以上に及ぶ場合は 5 分間のクーリングブレイクを取ることができる。

② WBGT25℃以上の場合、守備時間が 20 分以上及ぶ場合は、5 分間のクーリングブレイクを取ることができる。

- 食欲不振、寝不足、体調不良者など選手の体調変化に目を配り、熱中症にならないよう最大限配慮する。（大会運営や試合進行など）
- 試合中に熱痙攣になった場合、一時的（5 分程度）に休息し様子をみる。試合中に同じ症状が出た場合は選手交代を促す。
- 試合中に熱中症（中程度～重度）となった場合は速やかに選手を交代し医務室へ搬送する。（保護者およびチーム関係者のいずれかが選手に帯同する）
- クーリングブレイク（給水タイム）について
  クーリングを目的としているため日射を遮り、風通しの良い環境を作り休ませる。
  冷却として氷嚢、冷却水で顔や頭、首やわきの下、鼠径部を冷やす。
  冷却、給水に当てているため、トレーナーや指導者などのマッサージ等は行わない。

■その他、対応が望ましい熱中症予防対策

大会運営側の対応
- 散水設備が整う会場では、可能な限り、内野地域に散水を行いグラウンド温度を下げることが望ましい。
  （人工芝グラウンドの場合は、実施なし）
  ※6 イニングの試合の場合は、試合前・3 回終了後とし、7 イニングの試合の場合は、試合前・4 回終了後に実施する
- 両チームベンチ内に扇風機を設置することが望ましい。